

2022年3月期 第3四半期


決算補足資料

証券コード：6908

2022年2月2日

イリソ電子工業株式会社



-  **I. 2022.3期 第3四半期連結決算概要**
- II. 2022.3期 連結決算見通し**
- III. トピックス**

- ・売上：半導体不足等影響継続するが、パワートレイン、コンシューマー、インダストリアル市場がカバー。パワートレインとインダストリアルは最高売上更新。
- ・営業利益：原材料と輸送費高騰影響を、売上増と原価低減で改善し増益。

■売上高：32,424百万円 (前年同期比125.1%)

オートモティブ	コンシューマー	インダストリアル	合計
25,417百万円 (120.9%)	3,823百万円 (121.3%)	3,183百万円 (182.2%)	32,424百万円 (125.1%)

①オートモティブ(車載)市場：

- ・電動化関連の車載パワートレイン分野が前年同期比204%と堅調。
- ・半導体不足等で自動車減産が継続、当初計画に対し約-20億円の影響。
- ・月次売上は10月を底にして、11月より回復。4Qはコロナ影響が不透明だが挽回する見込み。

②コンシューマー市場：一部半導体不足影響あるが、ゲーム、OA機器向けで好調。

③インダストリアル市場：FA機器向けが中国向け継続好調。

■営業利益：3,387百万円、営業利益率10.4% (前年同期比+1,647百万円)

①原材料(金、銅、樹脂)と輸送費高騰影響約-18億円(営業利益率約-5.4%)。

②3Qに生産調整並びに当社ベトナム工場がコロナ影響で約-4億円の影響。

③追加収支改善施策により、約7億円の改善を実現。

2. 2022年3月期第3四半期連結業績(前年同期比)

単位：百万円

	21.3期 第3四半期 累計	22.3期 第3四半期 累計	前年同期比
売上高	25,920	32,424	6,504 125.1%
営業利益	1,739 (6.7%)	3,387 (10.4%)	1,647 194.7%
経常利益	1,580 (6.1%)	3,399 (10.5%)	1,819 215.1%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1,104 (4.3%)	2,953 (9.1%)	1,849 267.4%
EPS	46.87円	125.44円	
為替レート 期中平均	ドル：105.87円 ユーロ：122.30円 元：15.38円	111.38円 130.85円 17.30円	5.51円 8.55円 1.92円

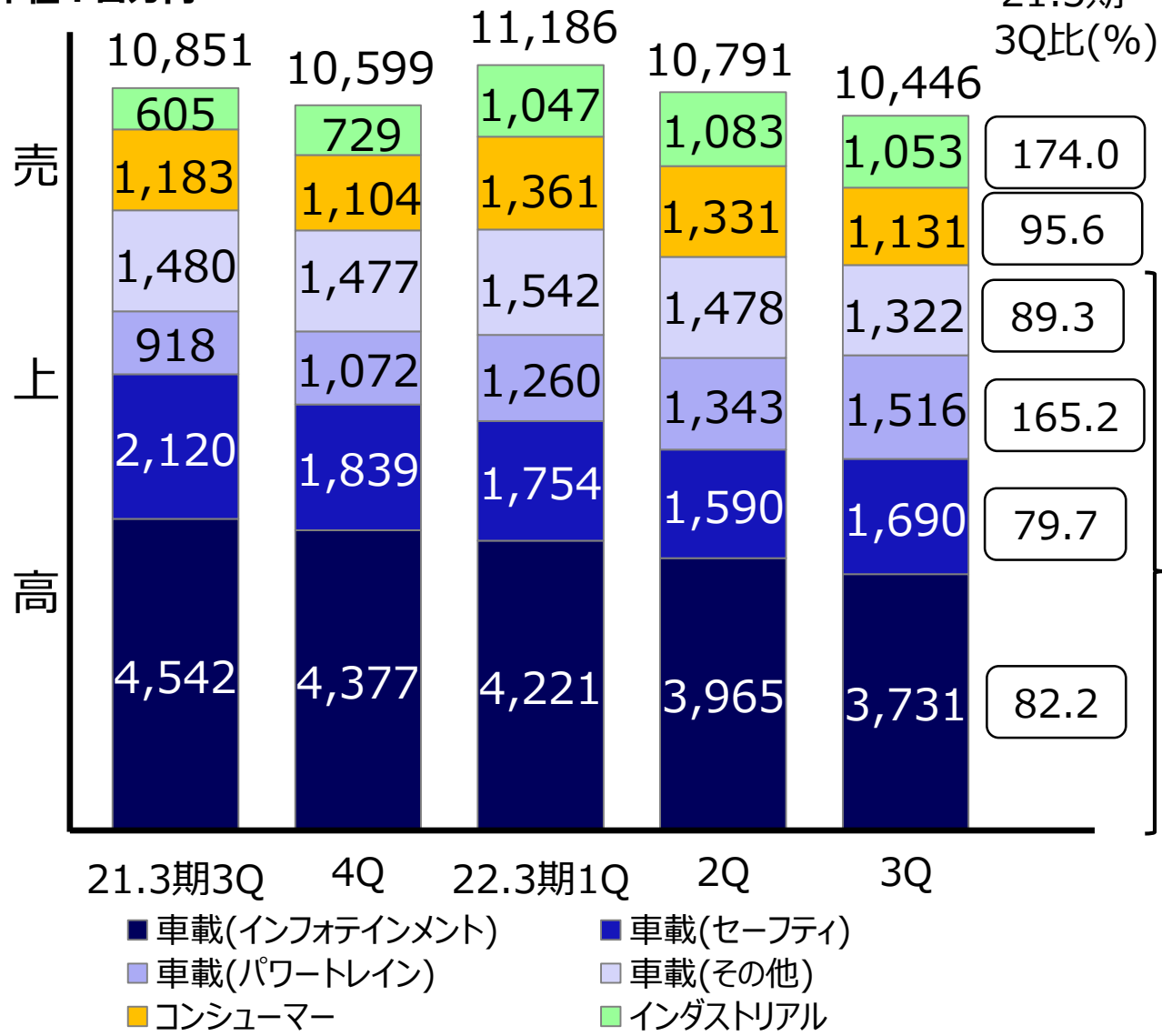
3. 売上高詳細(市場別)

単位：百万円

		22.3期 第3四半期累計	前年同期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		25,417	120.9%	78.4%	・前期の新型コロナによる低迷から大幅回復
区分	エンターテインメント	11,917	109.5%	36.8%	・パワートレイン分野は電動車の増加を背景に、前年同期比204%と好調
	セーフティ	5,035	105.7%	15.5%	・半導体不足の中、パワートレイン分野の貢献もあり3Q累計グローバル生産台数の前年同期比-1%減を上回る20%増
	パワートレイン	4,120	204.5%	12.7%	
	その他	4,343	129.6%	13.4%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TVなど)		3,823	121.3%	11.8%	・ゲーム機向け、OA機器向けが牽引 ・3Qに半導体等の部品不足の影響が一部あり
インダストリアル (産業機器など)		3,183	182.2%	9.8%	・中国向けのFA関連機器の需要増、5G基地局向けでの新規搭載により好調
合計		32,424	125.1%	100.0%	・海外比率75.1%

4. 市場別売上高(四半期推移)

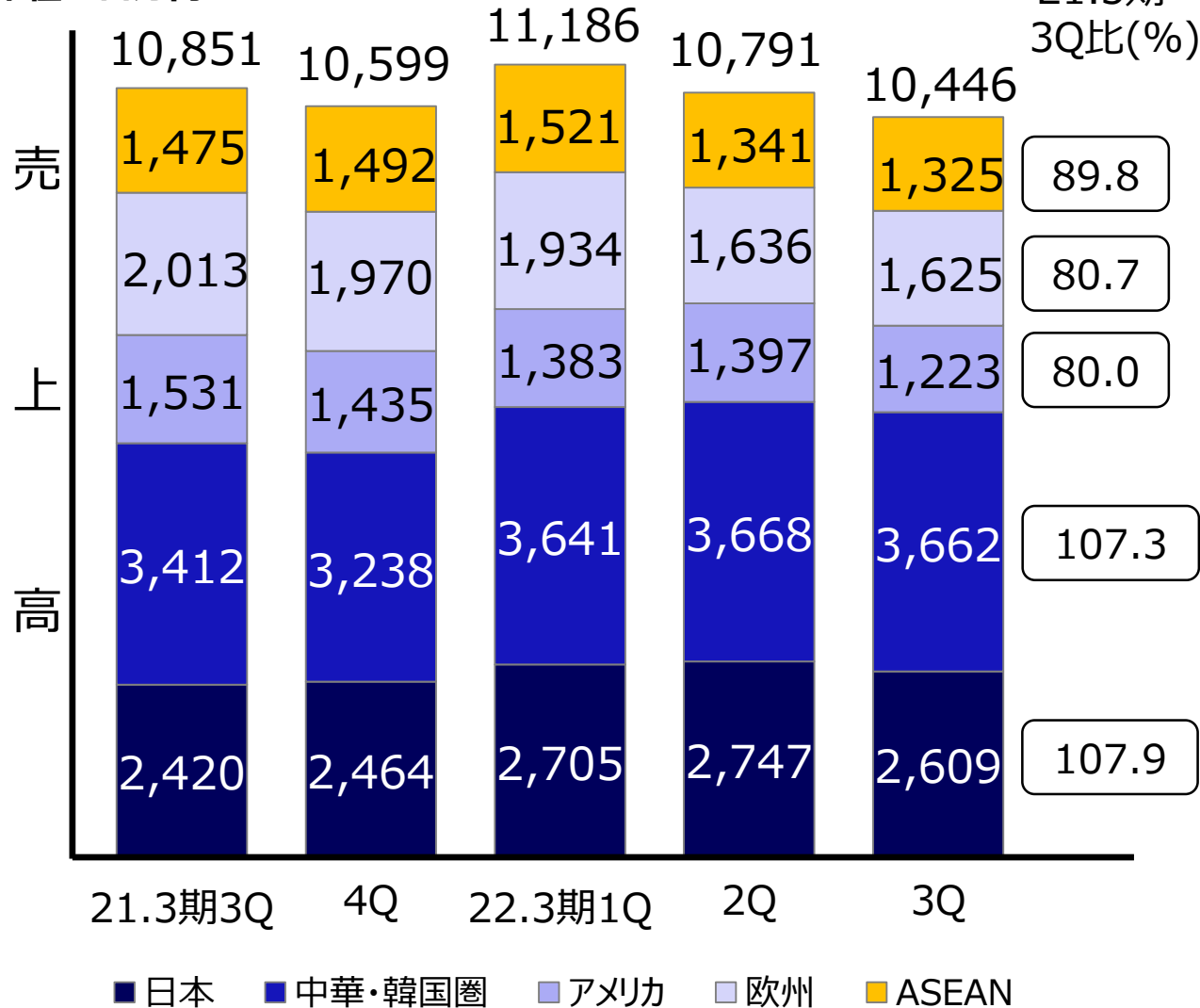
単位：百万円



- インダストリアル**
 - ・PLCやサーボアンプ向けが好調を維持
- 消費者**
 - ・22.3期2Q比：半導体不足等の影響が主にゲーム機向け、テレビ向けであり減少
- 車載全体** 91.2
 - ・22.3期2Q比：半導体不足等の影響がインフォテインメント、その他分野(スイッチ等)にあり微減。セーフティ分野は回復
 - ・電動車の市場拡大により、パワーTRAIN分野は好調を維持し、四半期での最高売上を6Q連続更新中。特にバッテリー関連向けが牽引
 - ・全体では10月を底に回復基調

5. 地域別売上高(四半期推移)

単位：百万円



ASEAN(旧シンガポール+タイ)
 ・22.3期2Q比：半導体不足等の影響をコンシューマー市場のOA機器向けがカバー

欧州
 ・22.3期2Q比：半導体不足等の影響をセーフティ分野の回復によりカバー

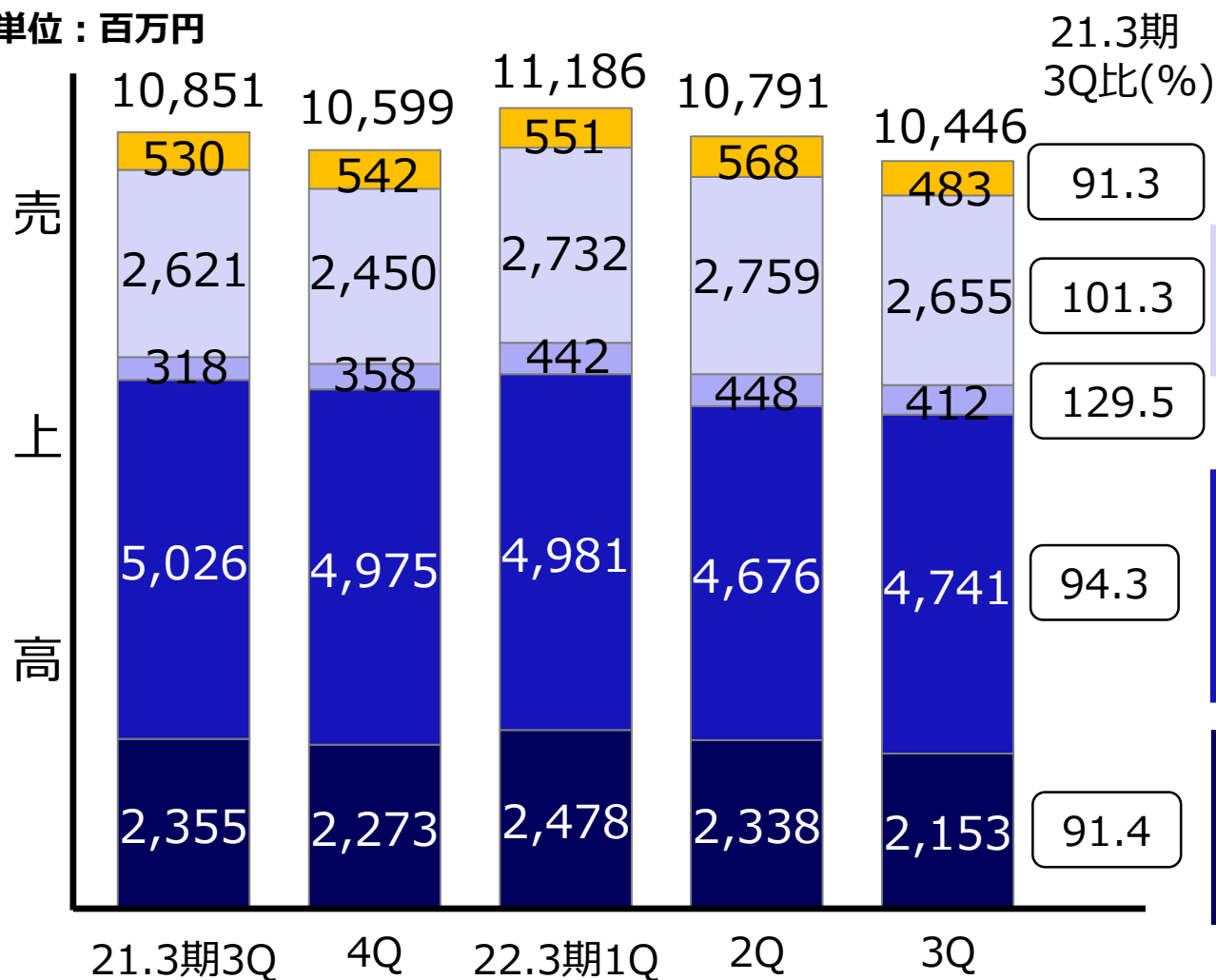
アメリカ
 ・22.3期2Q比：セーフティ分野は回復基調。車載全体では半導体不足の影響でマイナス

中華・韓国圏
 ・22.3期2Q比：コンシューマー市場が半導体不足等の影響で減少するも、パワートレイン分野が続伸しカバー

日本
 ・22.3期2Q比：パワートレイン分野は伸長。その他の車載分野とコンシューマー市場が半導体不足等の影響でマイナス

6. 製品別売上高(四半期推移)

単位：百万円



車載インターフェイスコネクタ
 ・22.3期2Q比：
 車載市場の減少影響でマイナス

BtoBコネクタ
 ・22.3期2Q比：
 セーフティ分野の回復とパワートレイン分野の伸長により増加

FPCコネクタ
 ・22.3期2Q比：
 コンシューマー市場の減少影響でマイナス

■ FPC ■ BtoB ■ ピンヘッダー ■ 車載向けIF ■ Others

7. 損益計算書(連結)(前年同期比)



単位：百万円

	21.3期 第3四半期 累計		22.3期 第3四半期 累計		前年同期比	
売上高	25,920	100.0%	32,424	100.0%	6,504	125.1%
売上原価	18,303	70.6%	21,585	66.6%	3,282	117.9%
売上総利益	7,617	29.4%	10,839	33.4%	3,222	142.3%
販売管理費	5,877	22.7%	7,452	23.0%	1,574	126.8%
営業利益	1,739	6.7%	3,387	10.4%	1,647	194.7%
営業外収益	133	0.5%	74	0.2%	△59	55.6%
営業外費用	293	1.1%	61	0.2%	△231	21.1%
経常利益	1,580	6.1%	3,399	10.5%	1,819	215.1%
特別損益	△85	△0.3%	△139	△0.4%	△53	162.8%
税前利益	1,494	5.8%	3,260	10.1%	1,765	218.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,104	4.3%	2,953	9.1%	1,849	267.4%
E P S	46.87円		125.44円		-	
為替レート	105.87円/		111.38円/		5.51円/	
(ドル/ユーロ/元)	122.30円/15.38円		130.85円/17.30円		8.55円/1.92円	

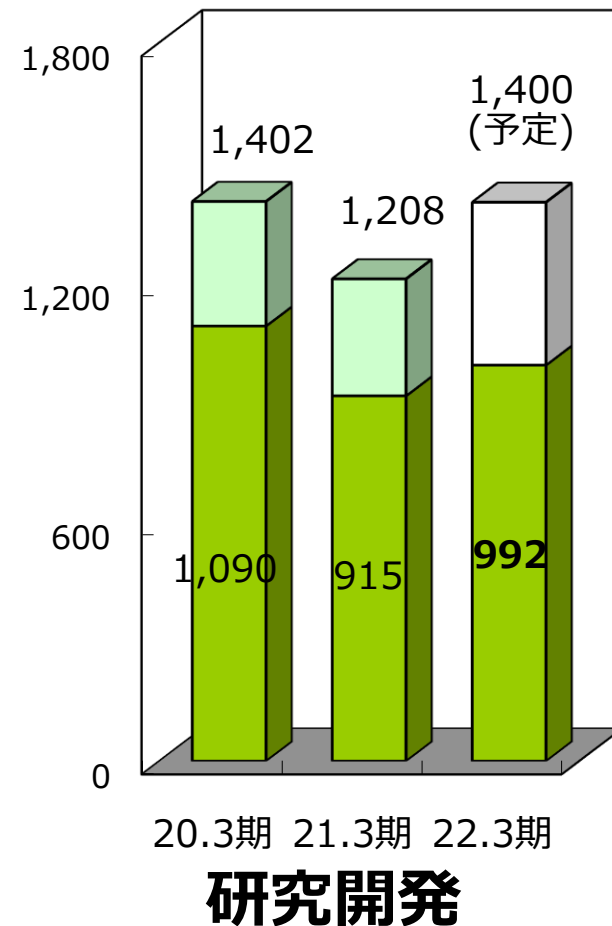
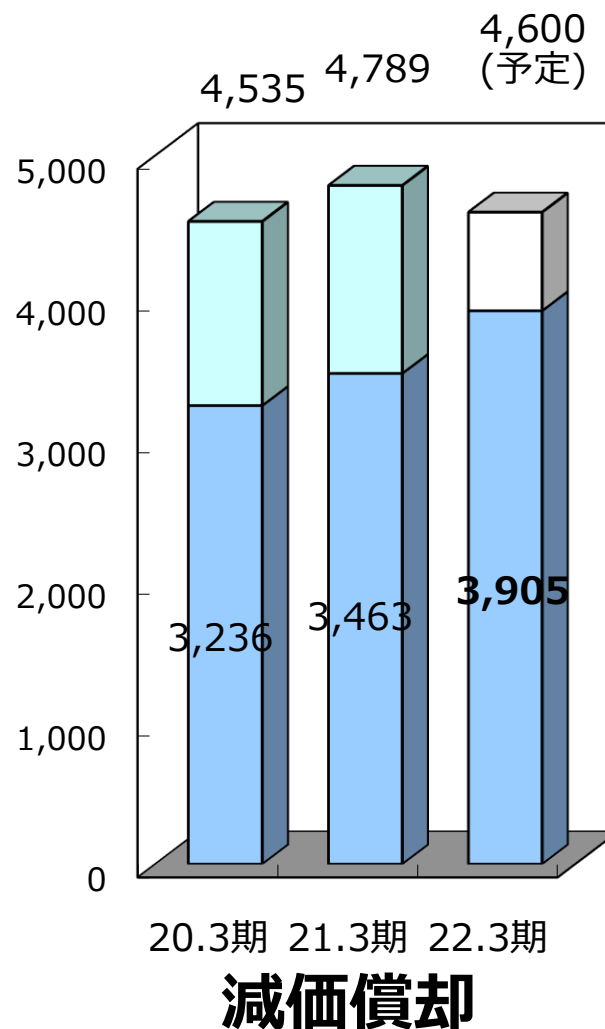
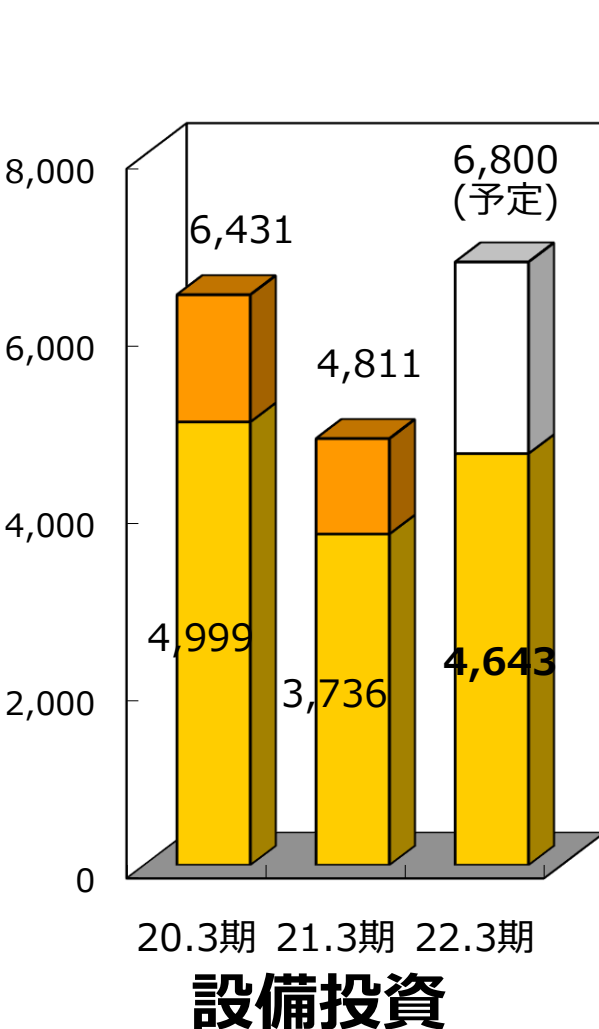
8. 貸借対照表(連結)(前期末比)

単位：百万円

	21.3期		22.3期 第3四半期		前期末比	要因
流動資産	35,209	55.1%	36,934	54.2%	1,724	現預金 $\Delta 1,320$ 売掛債権 607 商品及び製品 1,776
固定資産	28,732	44.9%	31,214	45.8%	2,481	有形固定資産 1,919
資産合計	63,941	100.0%	68,148	100.0%	4,206	
流動負債	7,956	12.4%	8,749	12.8%	793	買掛債務 434 未払金 167
固定負債	1,254	2.0%	1,166	1.7%	$\Delta 87$	
負債合計	9,210	14.4%	9,916	14.6%	705	
株主資本	52,176	81.6%	53,700	78.8%	1,523	純利益 2,953 配当 $\Delta 1,183$
その他の利益累計額	2,171	3.4%	4,149	6.1%	1,977	為替調整勘定 1,990
非支配株主持分	382	0.6%	381	0.6%	$\Delta 0$	
純資産合計	54,731	85.6%	58,231	85.4%	3,500	1株純資産 2,459.33円 (前期末 2,306.16円)
負債・純資産合計	63,941	100.0%	68,148	100.0%	4,206	

9. 設備投資・減価償却・研究開発

単位：百万円



注：各グラフの数値は、下段に第3四半期累計の実績、上位に通期での実績(22.3期は予定)を記載



I. 2022.3期 第3四半期連結決算概要

 II. 2022.3期 連結決算見通し

III. トピックス

1. 2022年3月期 修正計画



売上：インダストリアル市場が好調に推移するが、半導体不足影響等で車載市場を中心に期初計画には及ばず。ただし、為替影響により上方修正。

利益：原材料・輸送費高騰を吸収すべく、追加収支改善施策を実施するが、生産・売上が期初計画に及ばず、また想定を上回るサプライチェーン混乱によるコスト増により、下方修正。

単位：百万円	21.3期 実績	22.3期 期初計画	22.3期 修正計画
売上高	36,520	42,000	43,500
営業利益	2,900 (7.9%)	6,700 (16.0%)	4,800 (11.0%)
経常利益	2,970 (8.1%)	6,600 (15.7%)	4,750 (10.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,141 (5.9%)	4,800 (11.4%)	4,000 (9.2%)
EPS	90.89円	203.68円	170.05円
為替レート 期中平均	ドル：106.17円 ユーロ：123.73円 元：15.63円	105.00円 127.00円 16.00円	111.00円 130.50円 17.30円

追加収支 改善施策	効果		
	上期	3Q累計	通期予想
	約2億円	約7億円	計画約15億円→約13億円予想

■ イリソの経営方針

- ①グローバルでの顧客対応、為替変動に強い経営体質
→海外生産比率約85%、海外販売比率約80%
- ②顧客ニーズを先取りする直接販売並びに自社生産体制
- ③車載市場への注力

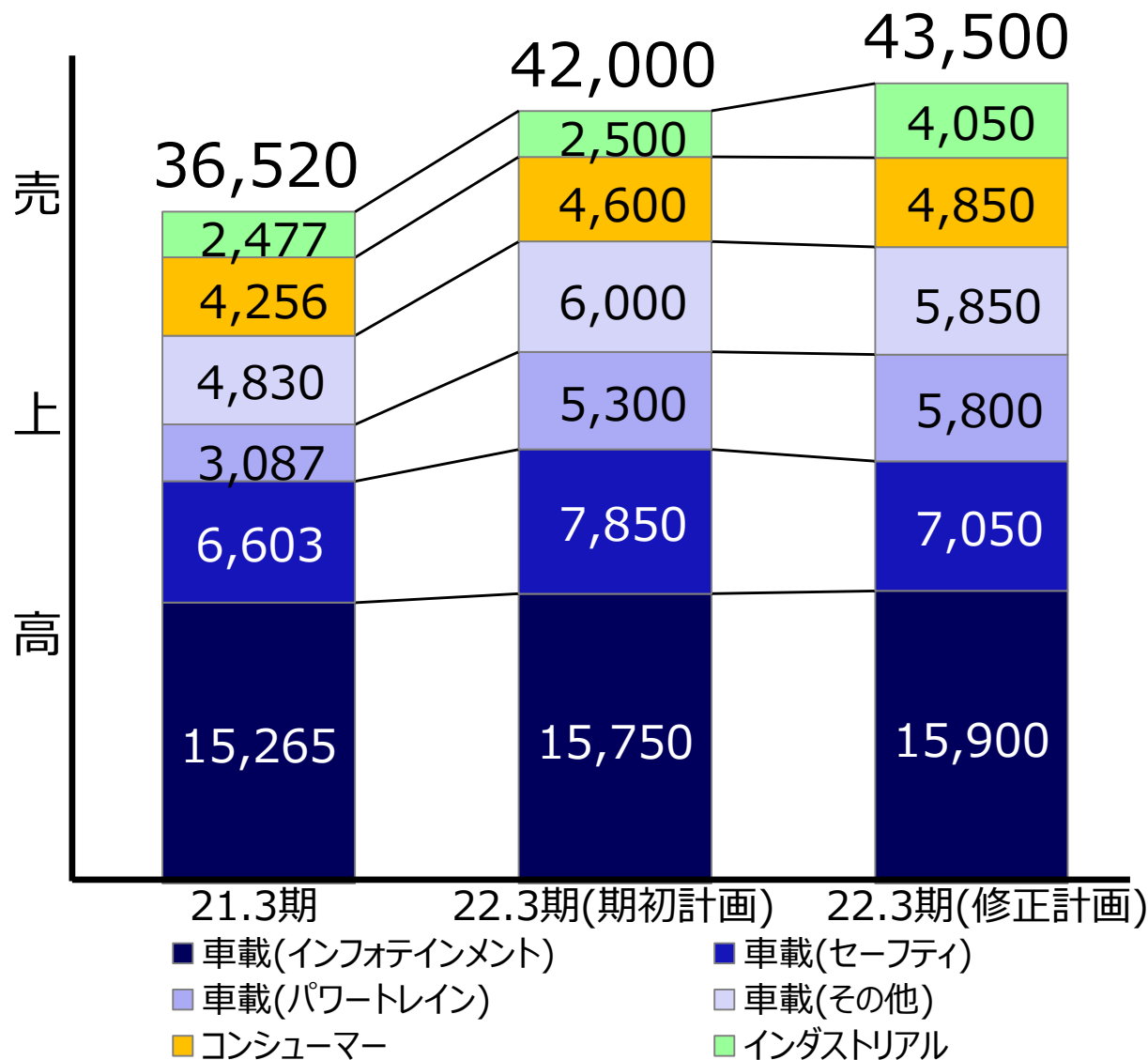
■ コロナ禍で浮かび上がった経営課題と対応

主要な経営課題	対応
<ul style="list-style-type: none">・サプライチェーンの混乱による 完成車メーカー及び部品メーカーの生産計画変動への対応・原材料や輸送費等の市況価格高騰への対応	<ul style="list-style-type: none">・短期的対応<ul style="list-style-type: none">・マルチ生産体制の構築・ロスコスト削減のための生産・出荷指示の 本社コントロール強化・生産拠点への原材料の安定供給・中期的対応<ul style="list-style-type: none">・生産能力向上と生産の地産地消化率向上・ERP刷新によるSCMの可視化、マネジメント力強化・価格政策の見直し

3. 2022年3月期 市場別売上高計画

単位：百万円

期初計画比増減率 /
売上構成比



インダストリアル	162.9% / 9.3%
消費者	105.4% / 11.1%
車載(Others)	97.5% / 13.4%
車載(Powertrain)	109.4% / 13.3%
車載(Safety)	89.8% / 16.2%
車載(Infotainment)	101.1% / 36.6%
車載(全体)	99.1% / 79.5%



I. 2022.3期 第3四半期連結決算概要

II. 2022.3期 連結決算見通し

 III. トピックス

■ 有限会社エスジーディー(以下、SGD)を子会社化(2022年4月1日予定)

- ・コネクタ等の射出成形金型及び金型部品の製造・販売を行うSGDを子会社化予定。
- ・SGDは金型の設計から製造まで一貫して手掛ける技術力と加工能力を保有し、子会社化によって小型精密金型技術を活用し、付加価値の高い製品開発を目指す。
- ・今後、SGDを射出成形金型技術の中核拠点として拡大していく方針。
- ・SGDの概要等は2022年1月11日に開示した文書をご参照ください。
(<https://ssl4.eir-parts.net/doc/6908/tdnet/2068260/00.pdf>)

■ CES 2022出展 (2022年1月5日～7日)

- ・アメリカのラスヴェガスで開催された世界最大級のテクノロジー展示会である「CES 2022」に初出展。
- ・パワートレイン、セーフティ、エンターテインメントといった車載機器向けのコネクタとコネクタを活用したソリューションをアピール。
- ・さまざまな車両(主に電気自動車)の分解と分析のYouTubeで注目を集めるSandy Munro氏も来場。



Munro氏が車両を分解する中で、当社コネクタに言及した動画も是非ご覧ください。
(<https://www.youtube.com/watch?v=g3qWBmz-j2k>)

※23分頃から紹介されています。

会社名	イリソ電子工業株式会社
事業内容	各種コネクタの製造・販売
設立年月	1966年12月
社員数	3,277名(2021年3月31日現在)
資本金	5,640百万円(2021年3月31日現在)
本社	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営業拠点	
国内	本社、福島県、茨城県、愛知県、大阪府
海外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、台湾、インド
研究開発	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、上海R&Dセンター
工場	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

コネクタの種類

基板対基板コネクタ（BtoBコネクタ）

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ（ボードtoボードコネクタ）とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B（ビー・ツー・ビー）は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板（Flexible printed circuits）やFFCケーブル（Flexible flat cable）の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF（Zero insertion Force）タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O（インプット／アウトプット）コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面（裏・表面）に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン（電導体）”をハウジング（樹脂材でできた絶縁体）で支えたプラグ（オス側）コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続（基板間接続）に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみにより依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。